

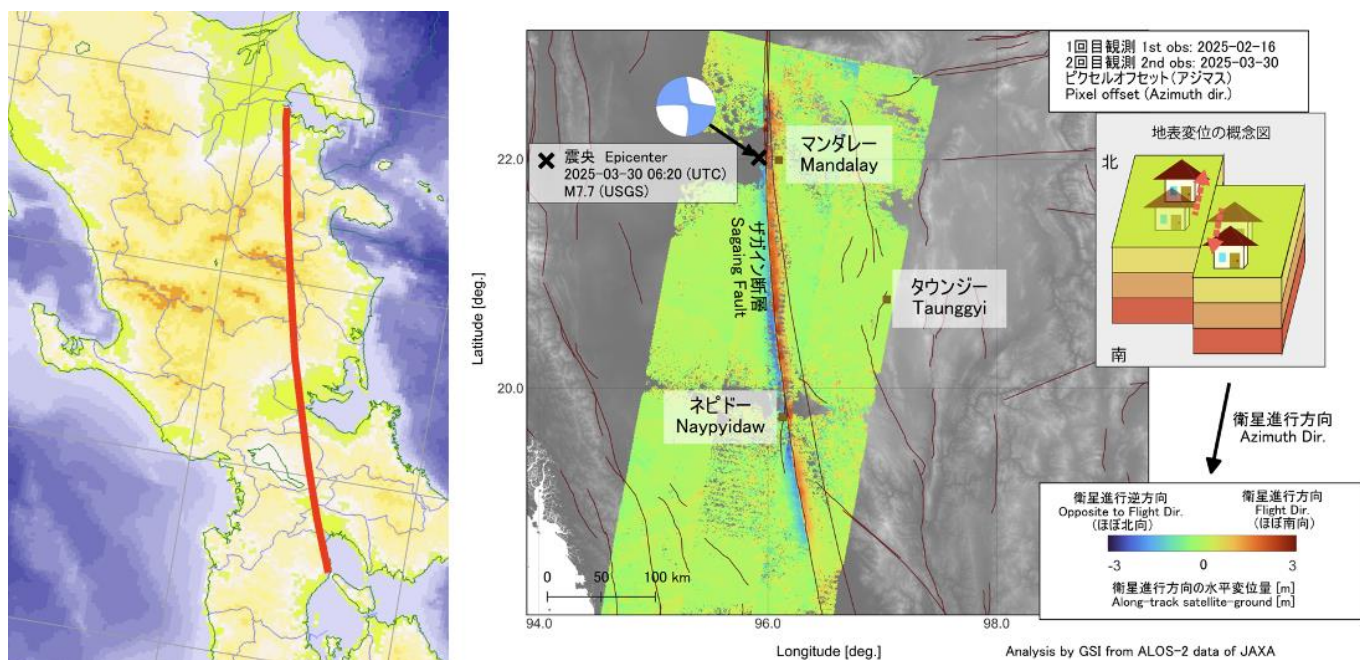
ミャンマー地震続報

3月28日に発生したミャンマーの大地震は、まだ被害の全容がはっきりしません。現地からの情報が圧倒的に不足しているのが実情です。

この地震でどれくらいの断層が動いたかについて、国土地理院が4月2日、JAXAの地球観測衛星「だいち2号」を用いた解析結果を公表しました。

この解析により、Sagaing(ザガイン)断層に沿って南北400km以上にわたって地殻変動が検出され、断層を挟んで西側でおおむね北向き、東側でおおむね南向きの地殻変動(右横ずれと言います)であったことがわかりました。さらに断層を挟んで最大で6m程度の大きな食い違いが見られたとのことです。

次の図は国土地理院の公表資料に、日本の地図を比較のために図示したものです。



上の左右の図は同一縮尺となっています。震源地はマンダレー付近でしたが、断層運動は首都のネピドーよりさらに南側まで大きく変動していたことがわかります。左側の図は今回の活動で大きな断層運動が観測された部分を日本の地図に重ねたものです。

つまり、東京から大阪まで一度に破壊が発生したのと同じような大地震であったのです。6日の段階で報告されている死者は3,100名を超えており、全容の解明が待たれる所です。

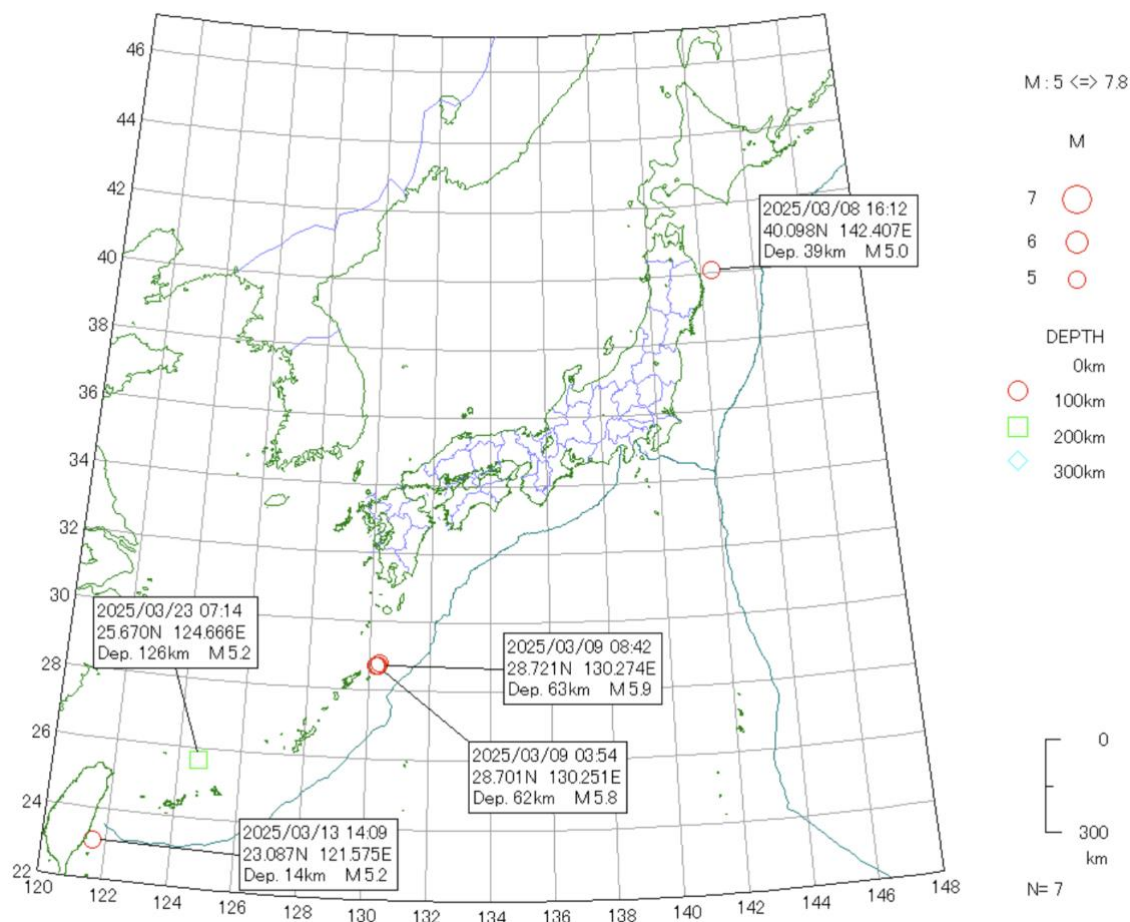
3月の地震活動概観

3月は日本列島およびその周辺地域でマグニチュード5を超える地震は7個発生しました。そのうちの4個は奄美大島近海で発生しています。この奄美大島近海での地震活動が陸域で発生したとすると、近傍では震度6弱ないし震度5強がたて続けに観測されるような地震活動で、大きなニュースになるはずです。いかに地震はどこで発生するか(陸域か海域か、人口稠密地域か等)で報道が変わってくるのです。

そのため、メディアではまず震度が問題となりますが、地球科学的にはマグニチュードがより重要な指標となるのです。

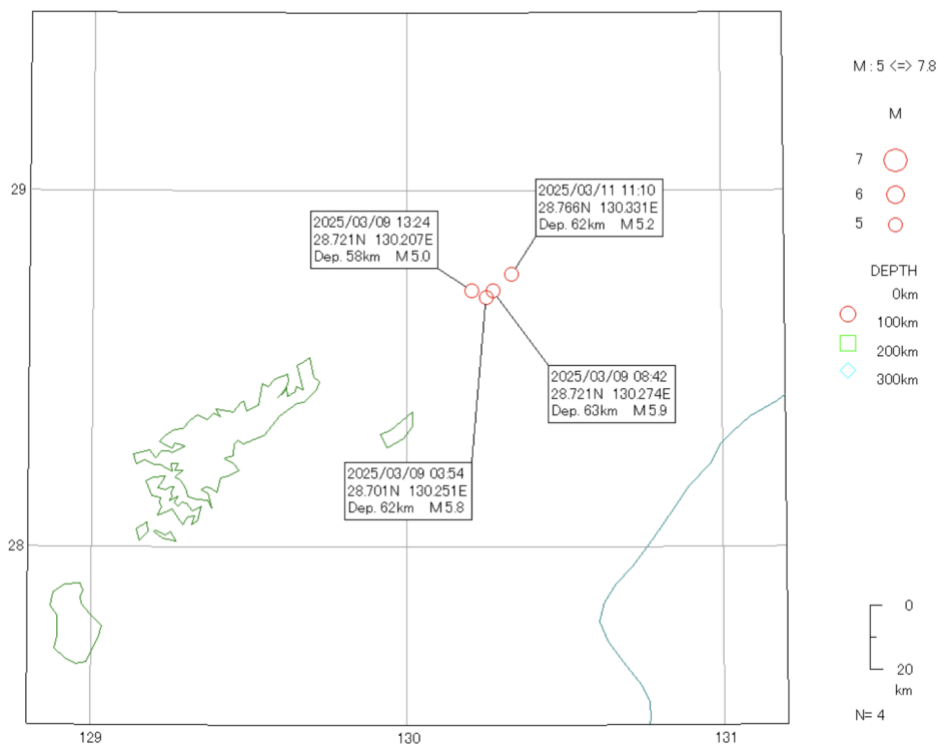
次のページに3月の日本列島全域の地震活動と奄美大島近傍での地震活動の図を掲載いたします。

2025 3/1 0:0 — 2025 3/31 23:59



3月に日本列島およびその周辺で発生したマグニチュード5以上の地震(7個)

2025 3/1 0:0 — 2025 3/31 23:59

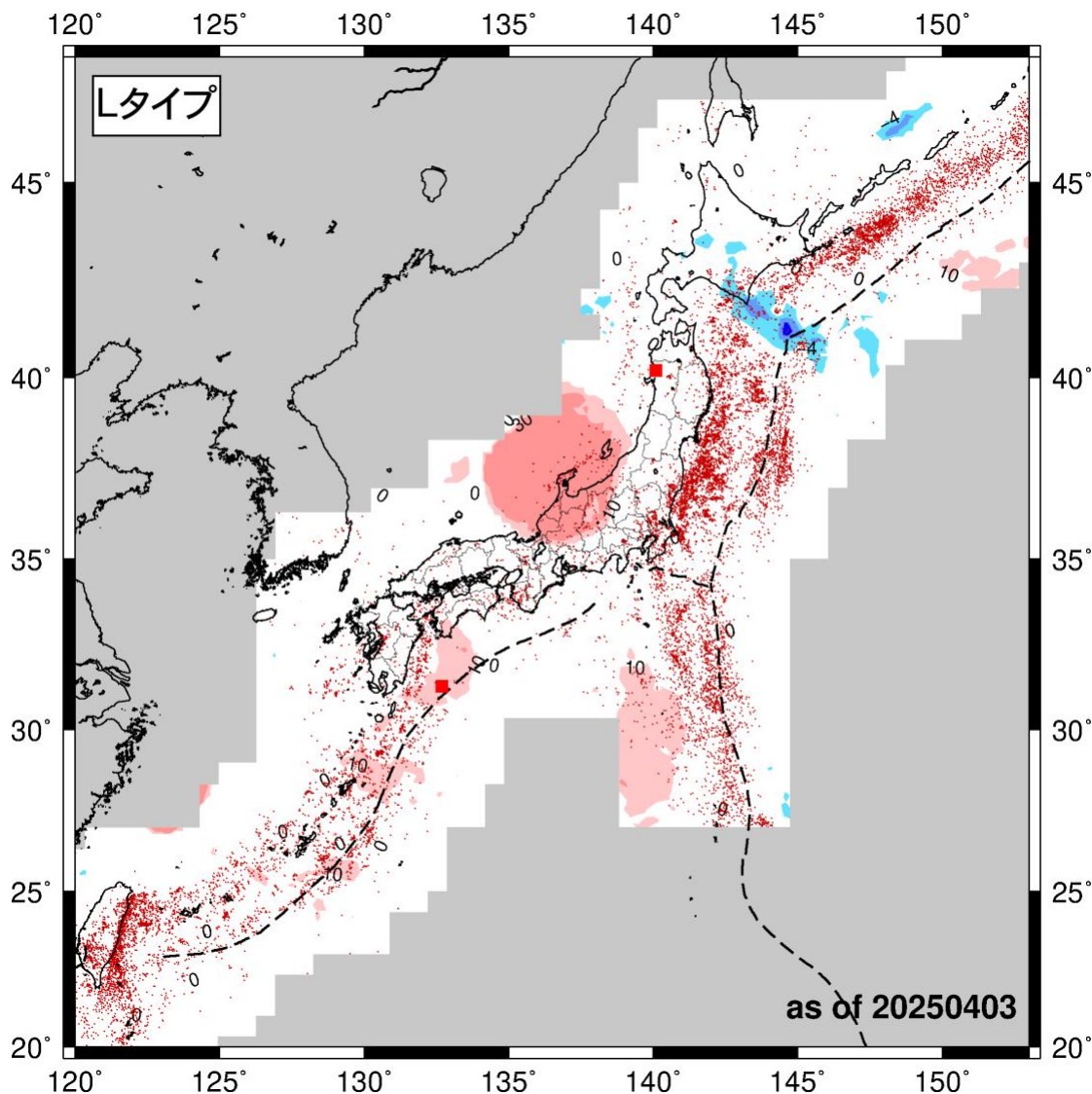


奄美大島近海で発生した4個の地震. 3月9日には M5. 9と M5.8 の2個の地震が発生した.



日本およびその周辺の広域地下天気図®

2月24日のニュースレターに続き、現在の気象庁の観測網で解析できる最大範囲の領域の解析です。今週号では4月3日時点のLタイプ地下天気図をお示しします。



前回の解析とパターンはほとんど変化していません。あえて言えば北海道南東沖(十勝沖)での地震活動静穏化が少し進行したようです。台湾南方海域での静穏化は解消状態が続いており、今後の地震発生も予想されます。

能登半島と佐渡島の間は、別の解析でもやはり地震発生可能性が比較的高いと推定される結果が出ています。

日向灘沖や今週のニュースレターで触れました奄美大島近傍での地震活動活発化が目立っています。

前回と繰り返しとなりますが、中国地方から近畿地方に出現している地震活動静穏化領域はこの解析では認める事ができません。これは陸域に特化した解析より、かなり大きな地震発生(M7クラスないしそれ以上の地震)の予測を目指した解析パラメータを使用しているためです。それゆえ、中国地方で想定されている地震はマグニチュード6クラスの可能性が高いと考えています。